

東京都北区中里貝塚 保存活用計画策定委員会 第3回会議 議事要旨

日時：平成30年5月11日（金）14:00～16:00

場所：北区飛鳥山博物館 講堂

【出席者】

<委員>

阿部 芳郎 委員長 石川 日出志 副委員長
吉村 晶子 委員 松本 晴光 委員（代理出席：議波）
山田 和夫 委員 堀江 正郎 委員 佐々木 富美子 委員

<オブザーバー>

山下 信一郎 文化庁文化財部記念物課史跡部門 主任文化財調査官
野木 雄大 文化庁文化財部記念物課史跡部門 文部科学技官
伊藤 敏行 東京都教育庁地域教育支援部管理課統括課長代理

<区関係理事者>

馬場 観光振興担当副参事 丸本 都市計画課長
岩本 土木政策課長 佐野 道路公園課長

<事務局>

田草川 教育振興部長 野尻 飛鳥山博物館長 鈴木 事業係長
中島 学芸員 牛山 学芸員 安武 学芸員

【次第】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 人事異動者紹介
4. これまでの経過報告
 - (1) 総括報告書の刊行について
 - (2) 昨年度の策定委員会の意見概要
5. 議題
 - (1) 史跡の構成要素と地区区分
 - (2) 保存活用の基本方針
6. その他
7. 閉会

【配付資料一覧】

1. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 第3回会議次第
2. 委員会席次

3. 中里貝塚保存活用計画策定委員会 名簿

4. 議事関係

資料1 これまでの経過報告

資料2 史跡の構成要素と地区区分

資料3 保存活用の基本方針

参考資料 文化庁の指針（保存活用計画の構成）

【傍聴人】

傍聴人 1 名

【議事要旨】

1. 開会

2. 教育委員会挨拶

3. 人事異動者紹介

4. これまでの経過報告

5. 議題

＜議題（1）史跡の構成要素と地区区分＞

○事務局 一資料説明一

○委員

地区区分に関しては、学術的な価値に則した貝層範囲に基づき、史跡として「保護する範囲」を設定しているので、この区分で良いと思う。

○オブザーバー

史跡の本質的価値と構成要素について、文化庁発行の『史跡等・重要文化的景観マネジメント支援事業報告書』で示されている要綱を参考にしながら、足りない要素はないか、今後保存したい、もしくは保存すべき史跡の価値には、どういったものがあるか、議論を深めていただければと思う。

○委員長

中里貝塚の本質的価値と構成要素として、「研究史」などは含まれないか？

○オブザーバー

構成要素の特定においては、基本的に「現地に物理的に存在するもの」を仕分ける作業となるため、「研究史」などは別の項目立てで整理する。また、「本質的価値」を検討するにあたっては、中里貝塚

の学術的価値に加えて、現代社会における価値や地域住民にとっての価値など、史跡の今後の保存と活用を考える上で、こういったものを中里貝塚の価値と捉えるべきか、この委員会で議論してもらえると良いと思う。

○委員長

構成要素に関しては、前回の委員会で現地視察も踏まえて検討を行ったので、ある程度合意が図られていると思う。ただ、分類において再整理が必要かもしれない。

○委員

構成要素に関して、体系的にどう整理するか、再考が必要だと思う。価値付けとセットで考えれば、①歴史的価値と②社会的価値の2つに大きく分けられ、さらに、「どの時点の価値」で、「誰にとっての価値」なのか、整理できると良い。

○委員

「本質的価値を構成する要素」の整理では、基本は史跡のその場所に、物理的に存在する構成要素を整理する。ただし、中里貝塚の研究史などの様々なデータ等は、今後の活用に関わる、もしくは史跡の評価に関わるものなので、本質的価値と分けて明示すると良いと思う。

<議題（2）保存活用の基本方針>

○事務局 一資料説明一

○委員長

地区区分で「IV-A, IV-B区」としているJR尾久操作場の敷地内では、試掘などを実施したことはあるか？

○事務局

調査は実施していないが、かなり盛土をして工事をしているので、遺構の残りは良好だと考えられる。

○オブザーバー

「史跡の望ましい将来像」を大綱として最初に明示して、その次に保存管理・活用・整備・運営体制それぞれの基本方針があって、さらにそれらを具現化するための手法を明示していく流れで組み立てていただくと良いと思う。

○オブザーバー

大綱の検討では、「どんな姿で、どう整備活用していきたいか」というイメージを示しながら、現状での土地利用状況を含め、地区区分と合わせて整理してもらえると良い。

○委員

大綱では、中里貝塚の保存活用に加え、周辺遺跡や関連文化財、飛鳥山博物館など周辺環境も含め、

広い視野で考えていただくと良い。

○委員

計画を作って終わりとならないよう「実現可能性のある将来イメージ」を示してほしい。また、中里貝塚の整備活用を担う人員（＝文化財職員）についても、今後の課題として盛り込んでほしい。

○委員長

中里貝塚の保存活用を積極的に進めていくにあたり、現状のスタッフだけでは、手一杯の状態だと思うので、増員などの体制整備も含めて活用を考えていく必要がある。

○委員

人員体制に関しては、スタッフの増員に加えて、地域の方々にどのように携わっていただくか、将来を担う若者や子供たちをどう巻き込んでいくかという点も重要となる。

○委員

史跡の価値を多くの人に知ってもらうためには何が必要なのか、史跡の望ましい将来像について、しっかりと議論する必要があると思う。

○委員長

史跡の活用を進めるにあたり、どのような施設であれば、指定地内に設置できるか？

○オブザーバー

指定地の整備活用に関して、ガイダンス施設などは基本的には隣接地となるが、トイレや東屋、休憩するための施設などは、指定地内で遺構に影響を与えない場所であれば、設置可能な場合もある。

○委員

一般的な思いとしては、「貝層を見たい」ということになると思うが、費用面や遺構保存のことも考えると、最近取り上げられているバーチャル的な整備（＝AR・VR）も1つの手段だと思う。

○委員

中里貝塚は低地に位置しており地下水位が高く、露出展示はかなり難しいので、バーチャルの活用も有効な手段の1つだと思う。ただ、「生の迫力」には及ばないので、時々、過去の発掘調査区を再度公開するなどして、体感できると良いと思う。

○オブザーバー

近年では、石の露出展示においても経年劣化が課題となっており、レプリカでの展示も増えてきている。中里貝塚では何が目玉で、どう見せていくのか、そのあたりを大綱の中で謳って、整備計画へと繋げていく必要があると思う。史跡の活用においては、地元の人が利用できるものと、外から中里貝塚を目指してやってくる人が満足できるものと、両立させる必要がある。また、ソフト面の活用計画も盛り込んでもらえると良い。

○委員長

茨城県の陸平貝塚では、住民参加で確認調査を実施しており、報告書の作成も市民の方々が担当しているので、文化財に対する理解を深めていく良い機会となっている。そうした視野も踏まえて、中里貝塚の整備活用の方向性を検討していければと思う。

○委員

昨年度の委員会で平城宮跡の話が出た際に「ただの原っぱでも、それはそれで良い面がある」とのことだったが、地元の人達はその原っぱを上手く活用している。地域に根ざした公園という点で、史跡広場を防災拠点としても利用できるの良い。

○委員

中里貝塚は北区を代表する史跡なので、今後の史跡の活用においては、区内の小中学生、高校生も含めて、「教育の場」として活用し、もっと周知できると良いと思う。

6. その他

※事務局から、計画策定のおおまかなスケジュールと次回委員会の日程について説明。

7. 閉会

以上